

第2回「次世代育種」促進研究会概要（要旨）

1. 日時：平成22年10月6日（水）13:00～15:00

2. 場所：日林協会館 3F 大会議室

3. 議題：(1)新たな原種・種苗供給体制について
(2)次世代育種に期待すること（茨城県、福岡県）

4. 出席者の主な発言内容

- ・コンテナ苗は海外ではかなり一般的に利用されている。日本でも問題点も多いが、造林初期におけるメリットも大きいので、普及させなければならない。
- ・林業経営者の立場から言うと、育苗に関して、このような基本的な姿勢は評価するが、どこの誰が関心を持って参入してくるか、従来の縦割りのシステムでは絶対に衰退していくし、広がっていかない。
- ・各都道府県へのアンケート調査結果でも、予算が激減していたり、職員数が減らされたりと問題がある中で、広域連携の必要性は十分考えていかなければならない。また、都道府県によってはこの事業に対する温度差があり、北から南までの林業関係者（経営者）の方達がこの事業で皆が同じような恩恵を得られるのか疑問である。今後、どういう風に導いていただけるのか。
- ・今回の提案のように苗木の供給体制が効率化されるということは良いことであると思う。都道府県の方々とどのような話し合いがなされるのか、その辺が気にはなるが、ご提案がうまく集約化出来ていけばよいと思う。
- ・我々民間がどのような形で参加していくのかイメージが今はないが、例えば、バイオの技術を使って、苗木の段階で将来を予測するような技術開発の面で連携することも考えられる。
- ・本研究会への各県の参加の状況を見ると、予算や人の関係からか育種に対する姿勢に相当な差があると実感した。